

# マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

8月になりました。今年は梅雨が明けると心配になるほどの長雨でした。そして、梅雨が明けると例年どおりの猛暑日が続いています。しかも、今年はマスク着用です。様々なことが異例の夏となっています。

そのような中で延期されていた自治大における今年度の研修がようやく始まりました。それまで、私たちマネジメントコースの研修生しかいなかった寄宿舎にも全国各地から研修生の方たちが入寮され、一気に賑やかになりました。寄宿舎のみならず、教室や演習室、食堂などもコロナ感染症対策により例年とは少し異なる部分もありますが、本来の状況に戻りつつあります。やはり自治大学校は全国各地の研修生のみなさんが集い、切磋琢磨しながら研鑽を積む場所であるということ再認識しました。

先日、ある方から携帯に突然連絡(LINE)がありました。最初は名前を見ても「誰?」と思うくらい久しぶりの連絡でした。内容は「校友だより見たよ!自治大に行かれていますね!」というものでした。その方と最初に出会ったのは、東京で開催された会議でした。遠く離れた全く別の自治体ですが、お互い同じ業務を担当する職員として参加し、会議の終盤に同じグループで意見交換をさせていただきました。そして、その1年後、自治大とは別の研修機関で再会し、偶然にも同じグループで発表することになりました。その方は、昨年度の2部課程に入校されていたそうで、今年度の校友だよりに私の名前があるのを見て連絡をくれました。

その方とのご縁もさることながら、寝食を共にして研修を受講する意義をあらためて認識しましたし、このような機会をいただいたことを大変有り難いと感じました。

派遣期間はすでに残り約半分となりましたが、課程運営と研修は「一期一会」の精神で取り組み、全国各地のみなさんとは一生続く繋がりを作っていきたいですね。

(Y. N)



管理棟エントランスの書

中庭の池も賑やかになりました

